

特定外来生物（要緊急対処特定外来生物）

アカカミアリ

昆虫綱 ハチ目 アリ科 *Solenopsis geminata*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥類

昆虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

基礎情報

原産地

・アメリカ合州国南部から中南米

現在の分布

- ・世界では、世界各地の熱帯、フィリピン、台湾などに移入。
- ・国内では、21 都府県、114 件の確認事例がある（2022 年度末時点）。硫黄島では完全に定着しており、かつ優占種となっている。
- ・本県では、2017 年に飛島村で確認されて以降、7 件の確認事例がある（2023 年 10 月末時点）。主に港湾地区のコンテナ内やその周辺で確認されているが、定着は確認されていない。

侵入の経緯

・硫黄島では、米軍の物質輸送にまぎれ込んで侵入したものと考えられている。県内の事例では、主に船舶の貨物（コンテナ）に紛れて侵入している。

形態

【働きアリ】

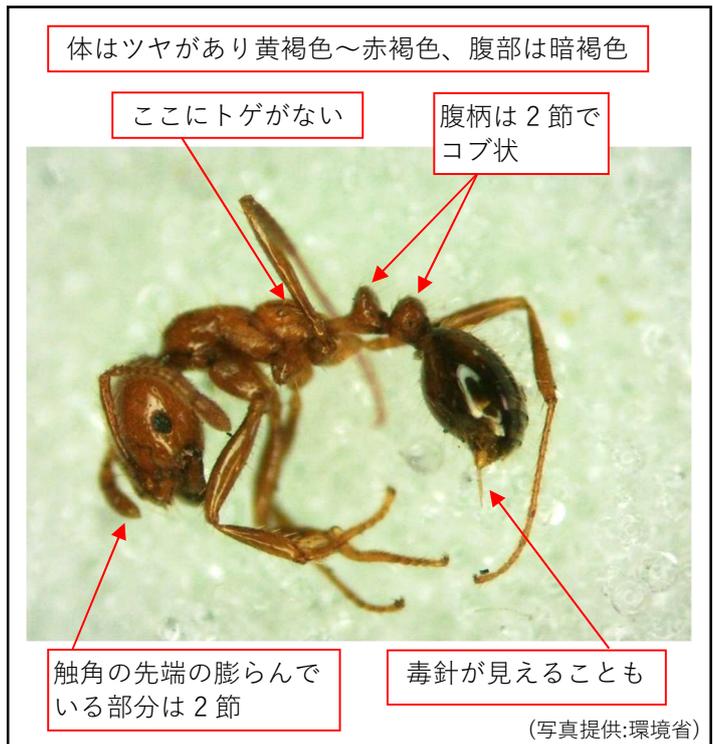
- ・体長 2.5～5.0mm、同じ巣の働きアリでも様々な大きさのものがいる。体形は細長い。
- ・頭部～腹部前方は黄褐色～赤褐色、腹部後方は暗褐色。全身に立毛が多いが目立たず、光沢を帯びて見える。
- ・大型個体ほど相対的に頭が大きくなる。大型働きアリでは頭部後縁（正面から見て頭頂部）中央が明瞭に凹む。
- ・触角は先端の 2 節が棍棒状に膨らみ、全体で 10 節からなる（他属は棍棒部が 3 節、触覚全体で 11 節）。
- ・前伸腹節（胸に見える部分の一番後ろの体節）にトゲや突起がない。
- ・腹柄は 2 節で、コブ状。



本県におけるアカカミアリの確認事例

No	確認年月日	確認地点	確認場所	発見数
1	2017/7/12	飛島村 飛島ふ頭	コンテナ外部	約60個体
2	2017/9/24	飛島村 飛島ふ頭	コンテナターミナル内	1個体
3	2018/7/11	飛島村 飛島ふ頭	コンテナ外部	—
4	2021/8/26	名古屋市 金城ふ頭	コンテナ内	—
5	2022/7/10	飛島村 飛島ふ頭	コンテナヤード	—
6	2022/9/5	飛島村 飛島ふ頭	道路・事業者敷地内	—
7	2023/7/21	名古屋市 空見ふ頭	事業者敷地内	—

・愛知県資料より（2023年は10月末時点の情報）



アカカミアリ（働きアリ）

生息環境

・裸地や草地などの開けた環境に生息し、土中に営巣する。

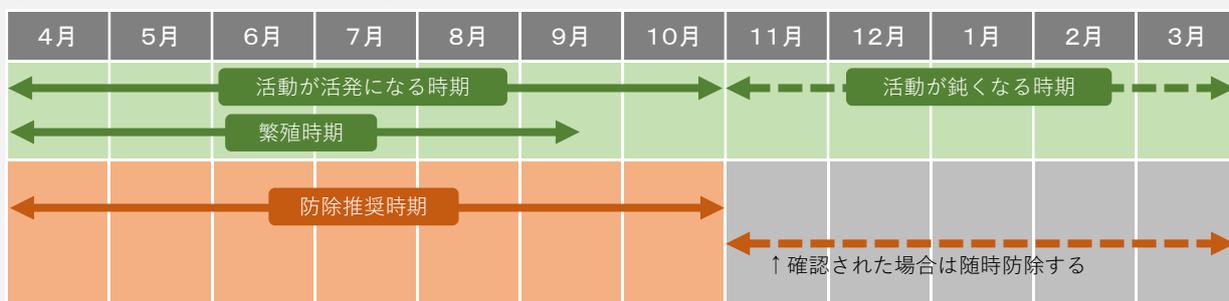
生態・ライフサイクル

- ・食性は雑食性で、アブラムシ等が分泌する甘露、草の種子のほか、小型節足動物も捕食する。
- ・草地などの開けた空間、コンクリートやアスファルトの隙間に入り込み、巣(ヒアリと異なり、楕状の低いアリ塚)を作る。女王アリと多くの働きアリが集団で生活する。他のアリに比べ産卵数が多く、繁殖力が高い。
- ・非常に攻撃的で、巣を刺激されると集団で襲いかかり、腹部の針で何度も繰り返し刺す。



アカカミアリ (女王アリ)

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

【ヒアリ類(ヒアリ・アカカミアリ等)の簡易同定】

・発見したアリをルーペ等で観察し、以下の①～⑥のいずれかに該当する場合は、ヒアリ類(ヒアリ・アカカミアリ等)ではない。なお、本種とヒアリとの識別は専門家による確認が必要である。

- ① 体色は黒い (ヒアリ類は赤褐色)
- ② 体長 2.5mm 以下の小さなアリ、6.0mm を超える大きなアリ(働きアリに限る)
- ③ 働きアリの大きさが均一でそろっている (ヒアリ類は大きさがバラバラ)
- ④ 脚が 8 本ある (ヒアリ類は 6 本、類似種のアリグモ類は 8 本)
- ⑤ 胸部と腹部の間のコブ(腹柄)が 1 節 (ヒアリ類の腹柄は 2 節)
- ⑥ 腹部後端が鋭く尖る (ヒアリ類は尖らない)

・外見が似ており人の生活圏で多く見られる種として、オオズアリがいる。

背中に短いトゲ

オオズアリ (在来種)

- ①一つの巣に、大小 2 型の働きアリが存在 (中間型は存在しない)。体長は小型働きアリで 3.0mm、大型働きアリ (兵アリ) で 4.5mm。
- ②頭部と腹部は暗褐色、胸部は赤褐色
- ③大型働きアリは頭が顕著に大きい(「大頭蟻」の由来)。
- ④触角は先端の 3 節が棍棒上に膨らみ、全体で 11 節からなる。
- ⑤背中 (前伸腹節; 胸部に見える部分の一番後ろの体節) に 1 対の短いトゲを持つ。
- ⑥腹柄は 2 節で、コブ状。
- ⑦毒針はない。

(赤字部分は特に分かりやすいアカカミアリとの識別ポイント)

- 哺乳類
- 鳥類
- は虫類
- 両生類
- 魚類
- 昆虫類
- 甲殻類
- クモ類
- 貝類
- 植物

影響・被害

- ・日本の在来アリを駆逐したり、小型節足動物を捕食したりして、生態系に大きな悪影響を及ぼす。
- ・農作物に食害を与え、家畜を襲ったりする。他にも、アブラムシやカイガラムシなどの農業害虫を本種が保護する(これらが出す甘露をエサとするため)事や、農地に有毒な本種が侵入することによる作業効率低下などにより、多面的に農業被害をもたらす。
- ・刺されると強い痛みが生じ、体質等によっては強いアレルギー反応を起こすおそれがある。犬や猫などのペットも、刺されると重い症状を起こすことがある。本県における刺傷事例は1件(2023年時点)。
- ・公園や河川敷でのレジャーを安心して楽しむことができなくなるおそれがある。ガーデニング、家庭菜園にも支障が出る。
- ・電気設備に巣をつくり、信号機や空港の着陸灯を故障させる。電線をかじって停電を引き起こしたり、ショートさせて火災の原因となることもある。

生息・被害の確認方法

- ・ベイト(誘引エサ)を地面に直接設置するか、プラスチック製の容器の中にベイトを置き、地面に設置。一定間隔(6m程度)で設置し、40~50分程経過した後に集まったアリを確認する。捕獲の際は、容器のふたを閉めるか、殺虫処理の上で回収する。
- ・粘着式のトラップを一定間隔(6m程度)で地面に数日間(3~4日間)設置する。
- ・営巣する可能性のあるコンテナヤード等の施設や土地で、舗装面の割れ目やコンクリートと舗装面の隙間などの点検を行い、働きアリや巣の有無を確認する。
- ・コンテナの開封時や空コンテナのメンテナンスの際に、コンテナや荷物などに本種が付着していないかを確認する。



アカカミアリ (働きアリ)

防除方法

- ・新たな侵入を防止する。少数の場合は、市販のスプレー式殺虫剤等を用いて駆除する。
- ・集団や巣を見つけた場合は、県または環境省に連絡し、専門家等の助言を得ながら駆除を行う。

推奨時期

- ・気温が上がり活動が活発になる4~10月の防除が推奨される(気温が低い冬は活動が鈍くなる)。
- ・拡散を防止するため、発見された場合はその都度すみやかに駆除することが望ましい。

具体的な防除方法

① 疑わしいアリを発見した時

- ・市販のスプレー式殺虫剤等を用いて殺虫する。殺虫した個体をピンセット等で採取する。
- ・採取したアリをルーペ等で観察し、【ヒアリ類(ヒアリ・アカカミアリ等)の簡易同定】(前ページに掲載)により識別する。また、接写機能付きのデジタルカメラ等を用いて写真を撮影する。
- ・肉眼や写真での観察により、ヒアリ類である疑いが深まった場合、愛知県自然環境課、環境省中部地方環境事務所またはヒアリ相談ダイヤル(0570-046-110)に連絡する。
- ・採取個体は最終的な識別に用いるため、サンプルとして保管しておく(70%以上アルコール浸漬等)。複数あることが望ましい。

② アカカミアリの数が少ない場合

- ・全ての個体をすぐに殺虫できる場合、即効性のスプレー式殺虫剤等を用いて駆除する。
- ・多数の個体が確認された場合や、アカカミアリが逃げ出してしまいそうな時、また、荷物の隙間やコンテナ内に多数潜んでいる可能性が高い場合は、刺激を与えないよう静置し、専門家の指示を仰ぐ。

③ アカカミアリの数が多い場合、目視で確認できない場所に隠れているおそれがある場合

- ・集団や巣を刺激しない。まずは分布範囲を特定し、専門家の指示を仰ぎながら駆除を実施する。
- ・アカカミアリを拡散させないように注意しながら、液剤(即効性)、液剤(遅効性)、ベイト剤(遅効性)、くん蒸剤・くん煙剤のいずれかを状況に応じて選択、または併用する。また、拡散を防止するため、状況に応じて、周囲に粘着トラップや忌避剤を併置する。なお、**地面での営巣が見つかった際は、遅効性のもも含めて液剤の使用は極力控える**(女王アリを含む生き残りがコロニーごと逃げ出してしまうことがあるため)。
- ・上記と並行し、周囲の調査を実施し、周囲に女王を含む巣(コロニー)が存在するか、その可能性が考えられる場合は、既に過去に女王アリが逃げ出している可能性を考慮して、周辺 2km 程度の調査を、目視やトラップを用いて行う。

作業上の注意点等

- ・作業中に手や足を刺されないよう、必ず保護手袋(厚手のゴム手袋等)や長袖、長ズボン、靴下を着用し、肌を出さないようにする。
- ・殺虫剤を使用する際は、人やペット、人が触る場所にかからないよう配慮する。また、動かなくなっても完全に死んでいない可能性があり、死んでいても針が刺さることがあるため、素手で触らない。
- ・1匹見つければ周囲にも潜んでいたたり、巣がある可能性もあるため、周りをよく確認したり、駆除後も定期的に確認をする。
- ・むやみにベイト剤を設置すると、在来のアリやその他の生物を殺してしまい、かえって本種が定着しやすい環境をつくってしまうおそれがある。
- ・現場を離れる前に全身をよく払い、アリを衣服につけて運んでしまうことのないよう注意する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(行う場合は手続等が必要)。

【刺された時の対応】

- ・刺された瞬間に熱いと感じるような激しい痛みを感じる。パニックにならず、刺された場所をタオルや保冷剤などで冷やし、20~30分程度安静にして様子を見る。その際、1人にならないようにする。
- ・刺された部位に小さな赤みが出て、翌日には膿がたまつたようになるが、その後は徐々に改善していく。
- ・息苦しさや口の乾き、冷や汗、めまい、血圧低下、しびれ、嘔吐、じんましん等、全身に症状がでた場合はアナフィラキシーショックの可能性があるので、すぐに医療機関で受診するか救急車を呼ぶ。受診の際は、アリに刺されたことを伝えるようにする。

出典・参考資料

- ・要緊急対処特定外来生物ヒアリに関する情報(環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html>
- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 昆虫類 > アカカミアリ(国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60390.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > アカカミアリ(環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-kon-03.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集(環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 昆虫類(環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/6hp_konchurui2.pdf
- ・ヒアリの防除に関する基本的考え方 Ver.3.2(環境省 自然環境局,2022) ・ヒアリ同定マニュアル Ver.3.0(環境省 自然環境局,2023)
- ・改訂版ストップ・ザ・ヒアリ(環境省 自然環境局,2019) ・ヒアリ類対処指針冊子(環境省 自然環境局,2023)
- ・福岡県ヒアリ等対応マニュアル(福岡県,2018) ・外来アリ同定・解説マニュアル(寺山守,2021)
- ・長野県版外来種対策ハンドブック~みんなで守る信州の自然~(長野県,2020)
- ・ヒアリ・アカカミアリの見分け方(確認方法)を紹介しています(兵庫県) https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk20/hiari-akakamiari_miwakekata.html

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物